

連携医院のご紹介



副院長と院長

医療法人 中村歯科

〒734-0007
広島市南区皆実町4-2-12
電話/082-251-0930
院長/大出 和宏
診療科/歯科・矯正歯科・小児歯科



歴史を刻んできた閑静な街並みと大規模マンションと
いった新しい街が交差する皆実町で、大出和宏院長と大出
か副院長が両輪となり、生涯を通じた歯の健康づくりに取
り組まれている中村歯科を御紹介します。

○いつ開業されましたか。

この診療所は、父の中村二郎前
院長が、1959(昭和34)年に開設
し、平成元年より私共も一緒に診
療をし始め今日に至ります。
またこの間、診療所の移転・改
築といった大きな節目も経験し
てきました。

○毎日診察で大切にされて いることは何ですか。

患者さんに納得して不安なく
治療を受けて頂くことです。
このため、前院長が開業以来、
大切にしていた「誠実・信頼・
説明」を治療ポリシーとしてい
ます。

特に私たちは、患者さんが自
分の家族だったらと思い、診療
にあたっています。

「自分の子供や親兄弟・友人
だったらどうして欲しいか」と
考え、診療方針を検討し、治療
にあたっています。

○開業医のやりがいは何で すか。

丁寧な治療や、各患者さんに
合った適切なブラッシング指導
など、こちらの誠実な診療を分
かって頂いて、「中村歯科に来て
よかった」と患者さんに言って
頂く時がスタッフ全員の喜びで
す。

○県病院へ一言。

患者さんの受け入れや情報交
換等を通じて、県病院の歯科・
口腔外科等の諸先生方とは、密
接な協力関係を築けています。
今後とも、宜しくお願いします。

○地域医療について一言。

この地域も高齢化が進んでい
くため、通院できなくなった患者
さんの在宅での口腔ケアが重要
と思われまます。



中村歯科外観

【取材後記】

開業時からの「誠実に取り組む」と
いうポリシーと、そのポリシーに即す
るよう白に統一された診療所の内装
や丁寧に構築されたホームページに
よって、皆実町のみならず他地域から
も来院されるなど、患者さんの信頼
を得ている診療所と感じました。

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院 で 検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

脳神経外科

教えて



専門診療医による得意治療を紹介いたします。

痛みの外科



脳神経外科部長
竹下 真一郎

■痛みについて

私たちは、日常生活の中でいろいろな痛みを経験します。『裸足で足の小指をドアにぶつけたとき』『食べ過ぎたとき』『歯を抜いたとき』など、痛みの原因や場所は様々ですが、痛いと早く何とかしてほしいと思うのが人情です。でも痛みには、私たちの体の中に起きた異常を気付かせてくれるという大事な役割もあります。「〇〇が痛いので病院に行ったら、思いがけず病気が見つかった」という経験をされた方もおられると思います。日常で経験する痛みの多くは、体の異常を知らせてくれるサインであることが多いのですが、稀に痛みを伝える感覚神経そのものの異常で痛みが出てくる場合があります。

このような痛みは“神経障害性疼痛”と呼ばれ、いったんおこると治りにくく、長患いになりやすい傾向があります。

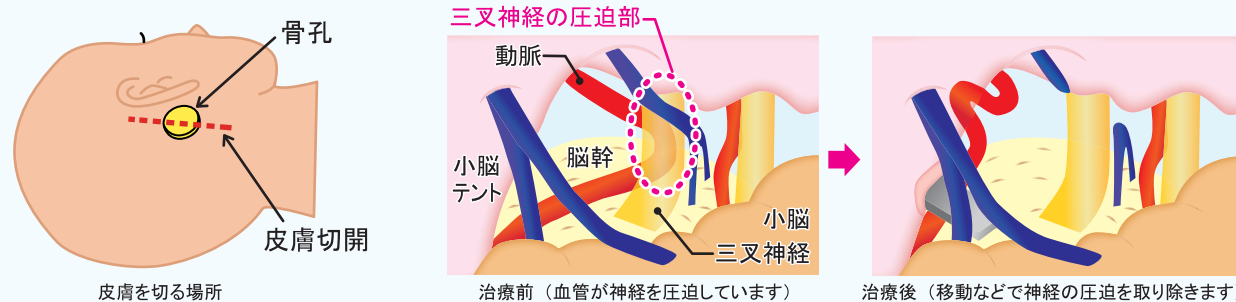
■顔の神経痛 = 三叉神経痛とは

神経障害性疼痛の中では、顔の片側が痛くなる“三叉神経痛”が有名です。歯磨きや洗顔などの軽い刺激で激しい痛みが起こり、普通の痛み止めは効かず、専用の薬が痛みを軽くすることが三叉神経痛の特徴です。

三叉神経痛の薬は開発が続いており、うまく薬を使えば飲み薬で痛みから解放される人も出てきましたので、ひと昔前とは隔世の感があります。とはいえ、ときには薬で痛みが取りきれないこともあります。そのような場合には、三叉神経痛は三叉神経が血管で圧迫されて過剰に興奮して起こっていることから、血管を神経から離す手術で痛みを軽くすることができます。

手術は一時的とはいえ患者さんの身体に負担がかかる点がデメリットですが、痛みの原因を根本的に治せる点で大きなメリットがあります。当院では20数年前よりこの治療に積極的に取り組み、好成績を維持しています。神経障害性疼痛には治りにくいものが多い中、三叉神経痛は根治できる数少ない神経障害性疼痛です。

三叉神経痛の手術：神経減圧術



皮膚を切る場所

三叉神経の圧迫部

動脈

小脳テント

脳幹

小脳

三叉神経

治療前 (血管が神経を圧迫しています)

治療後 (移動などで神経の圧迫を取り除きます)

次頁に続きます→

県立広島病院からのお知らせ

10月のがんサロン

- 開催日 平成28年 10月12日(水)
- 時間 14:00~15:30
- 場所 新東棟2階 総合研修室
- テーマ ヨーガで心と体をリフレッシュ
- 講師 ヨーガ療法士 のままりこさん
- 対象 悪性腫瘍(がん)で通院 または入院されている患者さん 及び そのご家族
- 問合せ先 地域連携センター
総合相談・がん相談室
TEL:082-256-3561
(担当：佐々木)

第8回がん診療連携拠点病院共催市民講演会

知ろう 学ぼう がんとのケア

～伝えていまわろ？あなたの気持ち～

- 日時 10月30日(日)
13:30~15:45(受付開始 12:30)
- 会場 広島県民文化センター
広島市中区大手町 1-5-3
- 講師 国立がんセンター中央病院 支持療法開発部門長
内富 庸介先生 ほか
- 申込方法 ①お名前 ②住所 ③連絡先
明記のうえハガキ、FAX、WEB 又はEメールにて下
記宛てにお申し込み下さい。参加証をお送りします。
【申込締切：平成28年10月21日(金)】

入場
無料

※当日は参加証が必要となります。

ハガキ：〒731-8530 広島市南区宇品神田 1-5-54
WEB：http://gan-hiroshima.wfamp.com
メール：gan-hiroshima@wfamp.com
FAX：082-297-5023

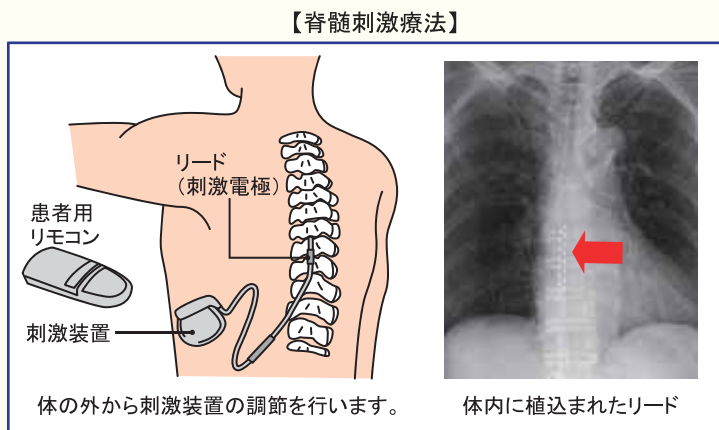
県立広島病院 地域連携センター
(がん相談支援センター)

■ 治りにくい神経障害性疼痛

三叉神経痛のように手術で痛みの原因を修復することができる神経障害性疼痛がある一方で、神経が切れてしまって修復できないものや、原因となっている神経が特定できない神経障害性疼痛もあります。複合性局所疼痛症候群や脳卒中後の痛みなどが、これらに含まれます。この神経痛に対しては、専用の飲み薬や、神経を一時的に麻痺させる薬の注射で治療をしますが、三叉神経痛と違い根治できませんので、痛みと長く付き合わなくてはなりません。当院では、頑固な神経障害性疼痛に、脳や脊髄を電気で刺激して痛みを減らす“神経刺激療法”という治療を行っています。

■ 神経刺激療法について

手術で脊髄や大脳の表面に電極を入れて、神経を刺激する治療です。先にリード（電極）だけ入れる小手術を受けてから試験的に刺激をし、痛みが取れるか実際に体感してから刺激装置の本植込みを決められる点が特徴です。また、手術後はリモコンを使って患者さん自身が刺激を調整するので、患者さんの要求に応えやすい点も特徴の一つです。体内の刺激装置は金属ですが MRI 検査を受けることが可能で、通常の保険診療内で治療します。脳卒中後のしびれ・痛み、複合性局所疼痛症候群、帯状疱疹後神経痛、Multiple operated back などの診断で他の治療に行き詰まった方は、お気軽にご相談ください。関係する科や施設と連携しながら、よりよい治療を進めていきます。



機能神経外科とは

脳神経外科の主な診療分野は脳腫瘍と脳血管障害ですが、ご紹介した神経刺激療法を含む機能神経外科と呼ばれる分野を行う施設が増えていきます。

平成 26 年には尿失禁や便失禁に対する仙骨神経刺激療法が保険診療で行えるようになりました。国外では狭心症に対する脊髄刺激療法や、頑固な頭痛に対する頭皮下神経刺激を保険認可しているところもあり、刺激療法の対象は広がっています。

脳卒中後に硬くなった手足のこわばりをとるボツリヌス治療や小児脳性麻痺の手足をやわらげるバクロフェン持続髄注療法が、三叉神経痛などの神経障害性疼痛に有効なことも判明し、機能神経外科全体の応用は拡大し、進化を続けています。



【仙骨神経刺激療法】
仙骨神経に装置を植込み電気で刺激。



【頭皮下神経刺激療法】
頭皮下の迷走神経に植込み電気で刺激。



【バクロフェン持続髄注療法】
植込んだ機器から薬を脊髄に注入。

機能神経外科外来

毎週水・木曜日の午後

かかりつけの先生に相談のうえ、紹介予約をお願いします。

ホッピースタッフ 南2病棟



どんなことでもご相談下さい！

南2病棟は、脳神経外科・脳血管内治療科、脳神経内科、移植外科の病棟です。診療科の特徴として治療目的の予定入院だけでなく、緊急入院の患者さんがとても多いです。また、救命救急センターで急性期重症患者さんの受け入れを積極的に行っています。看護師は患者さんの早期回復に向け、安全に日常生活の拡大が図れるように日々の看護に取り組んでいます。

部署には脳卒中リハビリテーション看護認定看護師がおりますが、今年度新たに感染管理、認知症看護、皮膚排泄ケアの認定看護師が誕生しました。

スタッフみんなが学び合い「患者さんやご家族にとっての最善」を常に考え、リハビリ科、地域連携支援センターなどと連携を取り、チーム医療を行っています。ベッド上で過ごされていた患者さんが回復して退院されるのが、私たちにとって一番の喜びです。退院後の脳卒中後遺症の支援として、脳卒中広島友の会（ぴあチアーズ）を開催しておりますので、ぜひご利用下さい。

外科医の独り言...no.61

— 我慢 —

日本では昔から我慢は美德と言われていました。我慢することそのものが本質的に良い事、悪い事とは断定できませんが、我慢しすぎると自然に不機嫌になってしまい、周りに迷惑をかけることになるかもしれません。上機嫌になるには理由がはっきりしていますが、何故かわからないが不機嫌になることがありますか？

心理学的に「自我消耗説」というのがあるそうです。ヒトの脳の中には自制や強い意志を発揮する領域がありますが、そこには限界があるそうです。たとえばつらいダイエット中に不機嫌になったり、連日遅くまで仕事をせざるをえない状況が続くと脳の中の我慢は限界に達し不機嫌になるようです。

時には不機嫌どころではなく怒りとして爆発することも容易に想像できます。しかし、その我慢が続けた先に何か良い結果が付いてくることがわかればそれは我慢ではなく忍耐というべきで、耐えられる我慢なので不機嫌になることもないかもしれません。

1970 年代に行われた有名な心理学の実験で「マシュマロテスト」というのがあります。これは 4 歳児 186 人に行った実験です。子供たちは一人一人机と椅子しかない小さな部屋に通されます。そして机の上にはマシュマロが 1 個だけ置いてあります。実験者は「私はちょっと用がある。それはキミにあげるけど、私が戻ってくるまで 15 分の間、食べるのを我慢していたら、マシュマロをもうひとつあげる。私がいけない間にそれを食べたら、ふたつ目はなしだよ」と言って部屋を出ていきました。そして部屋に残された子供の様子は監視カメラで観察されたのです。

結果的には 1/3 の子供が忍耐の末、マシュマロ 2 個を手にしたそうです。我慢できずに食べてしまった子と忍耐力を発揮した子の違いは何だったのでしょうか？ジッとマシュマロを見つめていた子や鼻を近づけて匂いを嗅いでい

た子供たちは結局誘惑に負けて食べてしまったようです。食べなかった子供たちは、歌を歌って気を紛らわせ、後ろを向いて美味しそうなマシュマロを見ない様にしていたそうです。すなわち、我慢強かったというより気を紛らわす工夫ができていたということのようです。後にこの 186 人の子供たちが学生になり、その学業成績を比較したところ我慢できた子供たちの方が良かったそうです。

実は講演会の広報をしたかったので、今回このような我慢、忍耐の話になってしまいました。来る 10 月 30 日(日)午後、県民文化センターで「知ろう、学ぼう、がん心へのケア」と題して、広島市内がん診療連携拠点病院 5 病院共催で講演会、パネルディスカッションを行います。

がん患者さん、ご家族も含めて皆さん様々な不安を抱えられています。自分一人で抱え込んで我慢しないようにしましょう。各拠点病院には相談センターが設置されています。センターを活用して頂くなど色々な工夫をしながら乗り越えましょう。「心のケア」とは病気に関する適切な情報を提供すること、孤立しないように情緒的に支えること、患者さんを悩ます不眠や不安、気分の落ち込みに対してサポートすることです。当日は実際の相談も受け付けています。

多くの方が会場に足を運んで頂けるよう広報していきます。ただし、一つだけ懸念材料があります。

当日、カーブが日本シリーズに出場した場合は、開催日のみならず開始時間も第 7 戦とぶつかってしまいます。カーブが第 6 戦までに日本一を決めてしまうことを切に祈っています。



副院長(消化器・乳腺・移植外科主任部長)
板本 敏行(いたもと としゆき)

ご意見箱

案内表示をわかりやすくしています。

「南棟や新東棟はどこ?」「コンビニ、レストランの場所が分かりにくい」このような患者さんの声を受けて、外来の 1 階、2 階、地下 1 階と、案内表示を大きな文字でわかりやすいように、また主な分岐点には足元に表示を付けました。

ご意見箱は中央ホールに設置しております。これからも皆さまからのご意見をお待ちしております。



壁と床の案内表示